

科目名 (科目番号)	微生物検査学実習 (時間割参照)	教員名	鴻巣 麻子 他	学科等	臨床検査	必修	履修年次	2
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				授業形態	実験・実習	オフィスアワー	木3・4 B202研究室	
授業概要		微生物学の講義で学んだ知識を基に、微生物検査に必要な無菌操作、培地作製、染色法、滅菌法など基礎的な手法を学ぶ。臨地実習や将来医療の現場において、実習で得た手技、知識が役立つように自分で考え行動できるように実習を行う。						
目的・目標		目的:検査技師として必要な微生物を扱うための手技、操作を身につける。 目標:病原微生物の培養、同定、薬剤感受性検査等について技術を習得する。						
準備学習		毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	微生物検査学実習の基本操作	到達目標:微生物を扱う上で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:無菌操作、培地作製、グラム染色などの手技を学習する。					
	2	微生物検査学実習の基本操作の復習	到達目標:微生物を扱う上で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:無菌操作、培地作製、グラム染色などの手技を学習する。					
	3	腸内細菌の培養、性状試験	到達目標:腸内細菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:TSI培地、OF培地などを用いて腸内細菌の同定作業を行う。					
	4	腸内細菌の同定	到達目標:腸内細菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:菌の培養結果から菌の同定を行い、レポートを作成する。					
	5	グラム陽性球菌の培養、性状試験、薬剤感受性	到達目標:薬剤感受性試験で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:ブドウ球菌などを用いて薬剤感受性試験を行う。					
	6	グラム陽性球菌の同定、薬剤感受性	到達目標:薬剤感受性試験で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:菌の培養結果から菌の同定を行い、レポートを作成する。					
	7	非発酵グラム陰性桿菌の培養、性状試験	到達目標:非発酵グラム陰性桿菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:緑膿菌などを用いてオキシダーゼ試験などで同定を行う。					
	8	非発酵グラム陰性桿菌の同定	到達目標:非発酵グラム陰性桿菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:菌の培養結果から菌の同定を行い、レポートを作成する。					
	9	らせん菌の培養、性状試験	到達目標:らせん菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:カンピロバクターなどを用いてらせん菌の同定を行う。					
	10	らせん菌の同定	到達目標:らせん菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:菌の培養結果から菌の同定を行い、レポートを作成する。					
	11	嫌気性菌の培養、性状試験	到達目標:嫌気性菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:バクテロイデス属などを用いて嫌気培養を行う。					
	12	嫌気性菌の同定	到達目標:嫌気性菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:菌の培養結果から菌の同定を行い、レポートを作成する。					
	13	抗酸菌・真菌の培養、性状試験	到達目標:抗酸菌・真菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:マイコバクテリウム属、カンジダ属などを用いて菌の培養を行う。					
	14	抗酸菌・真菌の同定	到達目標:抗酸菌・真菌の同定で必要な知識・手技を習得する。 学習内容:菌の培養結果から菌の同定を行い、レポートを作成する。					
	15	検査結果の解析と評価	実習で扱ったすべての菌についての検査結果の解析と評価を行う。また精度管理とサーベランスについて習得する。					
成績評価の方法・基準		レポート(60%)、試験(40%) (対面・オンライン共通)						
教科書		最新臨床検査学講座 臨床微生物学 微生物検査学実習書			松本哲哉 編集 森田耕司 編集		医歯薬出版 医歯薬出版	
参考図書								
教員からのメッセージ		実習資料を項目ごとに配布します。実習後、毎項目ごとにレポートを提出してください。レポートは後日、コメントをつけて返却します。非常勤講師の都合で実習項目の順番が変更になることがあります。事前に連絡します。総合病院で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。						